

終わりにしよう、我慢を強いる政治。 今こそ、怒りの声を。

市議4期

都議3期

今村
いまむら

るか



絵：政内正幸さん

さんに聞きました

既成政党との決別

—私はなぜ無所属になったのか

落選して見えた現実

前回の都議会議員選挙以降、高齢者施設の相談員として働き、認知症のお年寄りやそのご家族の本当に厳しい生活に直面しました。肉体的にも精神的にも大変な仕事に取り組む職員の方々の献身的な仕事ぶりも知りました。しかし多くの職員は最低賃金の非正規雇用で、ひとり親での子育てや親の介護など、様々な事情を持ちながらも使命感を持って働いているのです。

コロナ禍で労働環境はさらに厳しくなりました。自らの感染リスクに不安を覚えながらも、利用者への感染防止のため、職員は日々の生活にも配慮をしています。負担が増える一方で、利用者の減少で働く時間が減り、給与が下がることになりました。

コロナ患者の受け入れにより、負担が増えた上、給与が減額された医療機関と、高齢者施設や障害者施設、児童養護施設も同じような状況にあるのです。

私の“つもり”は大きな間違いだった

私は市議、都議としての活動を通じ福祉の充実に努めてつもりでしたが、現実をはるかに厳しいものでした。福祉の現場に実際に身を置いて政策と現実の乖離に気づかされたのです。

今回のコロナ禍で政治を外から見ていると、政治の動きが実態と大きく離れていると感じます。政府や都に現場の最前線で働く人たちの声が届くことはなく、本当に困っている人に必要な支援が届いていません。

政治は国民の幸福のために行われるべきものですが、

国や都が明らかに間違った政策を進めていても与党議員は総理や都知事に物申すことはありません。一方の野党は、どう批判すれば自分たちの得点になるかばかりを考えているように思えます。どこを向いて政治を行っているのか疑問に思います。今回危機的なコロナ禍においては、党利党略関係なしに与野党が協力して支援策を打ち出すべきです。

一人ひとりを救える政治を

今回のコロナ禍でわかったことは、それまでの生活が一変してしまう可能性が誰にでもあるということです。一家の担い手が急に亡くなったり、休業や時短要請でお店や会社が廃業に追い込まれたり、その影響で突然仕事を失うこともあるでしょう。そういう際に救いの手を伸ばすのが政治の役割です。私は本当に困っている人を救える政治をしたいと思います。

振り返れば、この間私も含めた政治家は行政の効率化等を進めてきました。今回のコロナ禍で崩壊しそうな医療機関や保健所の統合を進め役所や福祉施設の正規職員を減らしてきたのは政治です。その責任は与党だけではなく野党にもあるのです。

私は、以前の仲間と一緒にコロナ後の新たな政治の形を考えたいと思いますが、選挙のために寄せ集めの集団になってしまった政党では理想の政治はできません。だから私は既存の政党に属さず、市民の一人ひとりの声を第一に考える政治を目指します。皆さん一緒に私たちの新しい政治を始めましょう。

場当たりので根拠なき政府の対応

コロナウイルス感染が始まってもうすでに1年半。国も都も場当たりのでピント外れの対策を繰り返し、いまだに有効な対策を打ち出せません。外出自粛、時短営業、酒類の提供の禁止など、私たちには様々な要請をする一方で、政府から納得できる説明はまったくなされません。度重なる緊急事態宣言も、解除の基準も規制の根拠も示されないまま延長の繰り返し。今回の延長もこれまで通りのお願いのみの対策では感染収束できないことは明らかでした。

いつまで私たちは我慢を強いられるのか

国民に自粛を求めながら、政治家や国の職員は会食しコロナに感染するなど、本当に無責任な政治が行われています。

この間、医療は逼迫し、企業は追い込まれ、仕事は失われ、家も失い、苦しい生活を強いられる人が日に日に増えています。弱い立場にある人ほど厳しい状況に追い込まれ、自殺者も増加しています。様々な要請をするのであればそれに協力する人に対し国ある

いは都が十分な補償をするべきですが、額も少なく支給も非常に遅いものになっています。

人の流れを抑えろという一方でオリンピックは何としても開催するという矛盾した対応。口先だけで行動の伴わない総理大臣。一夜にして政策を転換する都知事。政府の誤りを指摘しない与党政治家。批判ばかりで政策を動かさない野党。自分たちのことだけを考えている政治家ばかりです。

今こそ怒りの声をあげよう

毎日感染者数や重症者数が発表されますが、おそらく政治家は私たちを数としてしか捉えていないのでしょう。しかし、私たちには一人ひとりそれぞれの暮らしがあるのです。国民の思いをしっかりと受け止め、暮らしをしっかりと支援する政治がいま必要です。

無責任な政治を変えなければ、日々命と暮らしが失われていきます。今こそ、皆さんの怒りの声をあげましょう。今村るかは、一人ひとりの声を大切にす都政に転換していくため全力を尽くします。すべては自己責任で丸投げの無責任な政治を終わらせて、私たちの新しい政治を始めましょう。

まったなしのコロナ対策

国や都の中途半端な対策で終わりの見えないコロナ禍。私の命や暮らしが危機にさらされています。今まさきに必要なのは科学的な知見に基づくコロナ対策と命を守る医療体制の確保、そして人々の暮らしを支えることです。コロナの収束が最も有効な経済対策にもつながります。命か経済かではなく総合的なコロナ対策をすすめなければなりません。

あなたの命を守る

コロナ禍で、自殺者数は、女性15%、子ども25%が増加しました。さらに感染後、入院できず自宅待機で亡くなる方がいます。保健所・病院の機能強化を進め、自殺防止対策を実施します。また、感染者急増時には、相模原市など都県境を超えた近隣自治体との連携で仮設病院の設営を進めます。

貧窮化と格差を止める

コロナ禍の1年で、雇用者数は64万人減少しました。その多くが、非正規雇用のひとり親や女性です。所得調査では、高所得者世帯の収入は微増、低所得者世帯ほど収入減少幅が大きく、貧窮化と格差が拡大しています。これ以上、貧窮化と格差が広がらないよう低所得者世帯と小零細企業に給付金支援金を支給します。

子どもが納得できる政治を創る

昨年の学校現場は運動会、修学旅行が中止になり、今年の運動会は無観客です。学校の児童・生徒・保護者からは「五輪準備は開催を前提に延期・中止の検討なく進む」ことに憤りと疑問の声が多く届いています。まずは東京都から延期・中止の表明をします。

●今村るかプロフィール

1968年町田市生まれ。すみれ・草笛・小野路保育園、藤の台・金井小、薬師中、基督教独立学園高校、和光大学卒。94年町田市議に25歳最年少で初当選、以後4期連続当選。2007年都議補選で初当選、3期。前回都議選で次点。現在は市内高齢者施設の非常勤の相談員として高齢者の暮らしを支える。また障害者施設を運営するNPO法人理事長、児童養護施設評議委員、市内保育園の理事等を務める。前回選挙後社会福祉士の資格を取得。現在は精神保健福祉士を取得中。家族：妻（作業療法士）、長女（15歳）、長男（12歳）の4人家族。